

# 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動指針 (第1版)

2021年5月28日作成

富士吉田市案内人組合

## はじめに

本指針は、富士吉田市案内人組合の組合員が、富士登山ガイド業務を行うにあたり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するための行動指針です。

本指針を実践するに当たっては、以下の資料を熟知したうえで、必要に応じて参照しながら業務を行ってください。

「感染症予防対策に係る基準」（山梨県・富士吉田市・富士山吉田口旅館組合作成）

<https://www.pref.yamanashi.jp/fujisan/annzenn/documents/documents/yamagoyakijyunn.pdf>

「新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」（富士山吉田口旅館組合作成）

<http://www.mtfuji.jp/guideline/fujisanyoshidaguideline.pdf>

「With コロナ時代の新しい富士登山マナー（詳細版）」（富士山適正利用推進会議作成）

[http://www.fujisan-climb.jp/resources/documents/manners\\_detailed\\_ja.pdf](http://www.fujisan-climb.jp/resources/documents/manners_detailed_ja.pdf)

本指針は、専門家の知見や関係各所の要請に応じ、必要な見直しを行うものとします。

# 1.登山前

## ガイド

### ●体調管理

- ① 基礎疾患がある、または罹患が疑われる場合は、事前に医療機関で診断を受け、富士登山に関するアドバイスを教えてください。
- ② 登山期間の2週間前から終了までの間、毎日検温を実施し、咳や倦怠感などの症状の有無とともに健康チェックシートに記録してください。また、健康チェックシートは登山期間終了の2週間後まで保管し、必要に応じて提出できるようにしてください。
- ③ 発熱や咳などの症状がある場合は、ガイド業務を辞退し、医療機関や新型コロナウイルス感染症受診・相談センターに相談してください。

### ●装備

通常時の装備に加え、感染対策用装備として下記の装備を準備してください。

- ・マスク（一人1泊あたり5枚程度）
- ・手ぬぐいやネックゲイター（マスクがない場合に代用）
- ・手指消毒剤（アルコールジェルや除菌シート）
- ・密閉式保存袋（ゴミや吐物などを密閉して持ち帰る）
- ・電子体温計（非接触式である必要はなし。使用ごとに除菌シート等で除菌する。）
- ・使い捨て手袋（他者の吐物や身体などに触れる際に使用 再利用はしない）

※感染対策用装備は、噴火時に使用する防塵マスク等とは別に準備してください。

### ●情報収集

- ① 感染防止対策に関する公式な知見や要請などについて、最新の情報を収集し、必要な対応・準備を講じてください。
- ② 山小屋やトイレ、救護所などの開設期間を確認し、当日利用できる施設を把握してください。また、宿泊する山小屋の感染予防対策を確認し、チェックインの方法などを参加者や添乗員に案内できるようにしてください。

### ●注意事項の周知

ツアー参加者、またはツアー主催者に対し、感染防止対策に関する注意事項や案内を、事前に十分な対策や準備ができる時間的な余裕をもって、参加者全員に周知するようにしてください。

## 参加者

### ●体調管理

- ① 基礎疾患がある、または罹患が疑われる場合は、事前に医療機関で診断を受け、富士登山に関するアドバイスを教えてください。

- ② 登山実施の2週間前から出発までの間、毎日検温を実施し、咳や倦怠感などの症状の有無とともに健康チェックシートに記録してください。また、健康チェックシートは登山終了の2週間後まで保管し、必要に応じて提出できるようにしてください。
- ③ 発熱や咳などの症状がある場合は、ツアー参加を辞退し、医療機関や新型コロナウイルス感染症受診・相談センターに相談してください。
- ④ 登山実施までの健康管理や体力維持に努め、不安がある場合にはツアー参加を辞退してください。

#### ● 装備

通常時の装備に加え、感染対策用装備として下記の装備を準備してください。

- ・マスク（一人1泊あたり5枚程度）
- ・手ぬぐいやネックゲイター（マスクがない場合に代用）
- ・手指消毒剤（アルコールジェルや除菌シート）
- ・密閉式保存袋（ゴミや吐物などを密閉して持ち帰る）

※感染対策用装備は、噴火時に使用する防塵マスク等とは別に準備してください。

#### ● 情報収集

感染防止対策に関する、山小屋やガイド、ツアー主催者等がお知らせする要請や案内について、最新の情報を収集し、必要な対応・準備を講じてください。

### 代表者またはツアー主催者

#### ● ガイドとの情報共有

登山参加者の代表者またはツアー主催者（添乗員）は、できるだけ早期に担当ガイドと連絡先を交換し、情報を共有できるようにしてください。

#### ● 緊急時の対応方法を決めておく

登山参加者の代表者またはツアー主催者は、登山中に感染が疑われる参加者が出た場合の対応策を決めておき、あらかじめ参加者並びに添乗員に案内してください。具体的には、五合目までの下山に誰が付き添うか。五合目からどのような交通機関を用いて帰宅するか。その場合の費用はだれが負担するか。感染が確認された場合にだれがどこに連絡するか。などが考えられます。

## 2. 登山当日（登山開始まで）

### ガイド

#### ● 体調確認

検温を実施し、発熱や感染が疑われる症状がある場合には、ガイド業務を辞退して代替のガイドを手配し、宿泊する山小屋とツアー主催者（添乗員）または参加者の代表に連絡してください。

## ●情報収集

天候や気象予報、登下山道の状況、当日の入山者数や山小屋の宿泊予約数等の情報を収集し、渋滞や混雑の状況を予測した上で、休憩やトイレ利用時の場所やタイミングをずらすなど感染防止対策を考慮した行動を計画してください。

## ●注意事項の説明

通常時の説明に加え、感染予防対策についての説明を参加者全員にわかりやすく伝達してください。なお、説明時には、マスクを着用し、風下に立つなど参加者への飛沫による感染に配慮してください。

## ●参加者の健康状態や装備の確認

通常時よりも注意深く参加者の健康状態や体調を確認し、体調不良者の把握に留意してください。体調不良者へは、本人の同意を得た上で、ツアーへの参加を中止していただくようにしてください。また、感染防止用装備を持参しているか確認してください。

## 参加者（添乗員を含む）

### ●体調確認

- ① 出発前に検温を実施し、発熱や感染が疑われる症状がある場合には、ツアーへの参加を辞退して、ツアー主催者（添乗員）または参加者の代表に連絡してください。また、発熱や感染が疑われる症状がある人と、住居を共にしているなど濃厚接触の恐れがある人も、ツアーへの参加を辞退してください。
- ② 登山開始時にガイドから注意事項等の説明がありますが、感染防止の観点からマスクを着用したうえ、大きな声を出すことを控えさせていただきます。参加者もマスクを着用し、しっかり耳を傾けていただくようにしてください。また、不明な点は遠慮せずにガイドに確認してください。

## 代表者またはツアー主催者（添乗員）

### ●体調確認

集合時やバス乗車時に参加者全員の検温を実施し、発熱や感染が疑われる症状がある人には、ツアーへの参加辞退を促してください。また、発熱や感染が疑われる症状がある人と、住居を共にしているなど濃厚接触の恐れがある人へも、ツアーへの参加辞退を促してください。

### 3.登山中

ガイド ・ 参加者（添乗員を含む）共通

#### ●ソーシャルディスタンスの確保

住居を共にしている同行者以外とは、2m程度のソーシャルディスタンスを確保して行動してください。その際、横に広がらず、縦の間隔を開けて、他の登山者が追い越しやすれ違いをする場合に、十分な間隔を確保できるようにしてください。また、他の登山者がツアーの列内に入り込んでしまった場合には、ソーシャルディスタンスの確保のために間隔をあけている旨を説明し、列から離れていただくようお願いしてください。

#### ●物品を共有しない

住居を共にしている同行者以外とは、ストックやスマートフォン、カメラなどの貸し借りをしてください。どうしても貸し借りが必要な場合には、十分に消毒を行ってください。

#### ●杭やロープに触れない

登山道の杭やロープは、本来、登山道を示すためのもので、手すりとして用いるためのものではありませんが、手に振れやすい位置にあるため、不特定多数の登山者が触れる可能性があります。感染防止のためにも杭やロープには触れないようにしてください。

#### ●渋滞時の対応

登下山道が渋滞している場合には、マスクを着用し、できるだけ立ち止まらない、狭い場所で休憩をしない、無理な追い越しをしない、広い場所で道を譲るなどのマナーを守ってください。

岩場や山頂直下などで下山者がいる場合には、密にならないよう注意しながら、できるだけ道幅のある場所で立ち止まるなどして、交互登下山にご協力ください。また、安全誘導員がいる場合には、その指示に従ってください。

ガイド

#### ●マスクの着用

ガイドは、落石の注意喚起など、不意に大声で発話しなければならない状況があるため、できる限りマスクを着用して行動してください。

#### ●無理のないペースを維持

ソーシャルディスタンスを確保するために列が通常時より長く伸び、後方の確認がしづらい、飛沫の飛散を防止するために呼吸が荒くならないようにする必要があるので理由から、通常時にも増して、無理のないペースを維持してください。

## ●参加者の体調確認

通常時よりも注意深く参加者の体調を確認し、体調不良者の把握に留意してください。途中の山小屋の収容人員が通常より少ない、感染が疑われる登山者は隔離する必要があるなど、各施設の負担やリスクは通常時より増大しています。体調不良者へは、通常時よりも早い段階で、本人の同意を得た上で、ツアーへの参加を中止し、下山していただくようにしてください。

## ●渋滞時の案内

登下山道が渋滞している場合には、できるだけ密にならないよう引率しているツアーを誘導しながら、他の登山者にも感染防止のための案内やルールの順守を促す声掛けを行ってください。

また、安全誘導員がいる場合には、その指示に従うとともに、引率しているツアーや他の登山者に向けて、誘導員を補助する声掛けを行ってください。

## 参加者

### ●マスク等の着用

混雑時や渋滞の中など、住居を共にする同行者以外とのソーシャルディスタンスの確保が困難な状況では、マスクを着用してください。また、追い越しやすれ違いの際には、マスクを着用するか、手ぬぐいやネックゲイターなどで、鼻と口を一時的に覆うようにしてください。

少しでも呼吸に困難を感じるような状況では、マスクは着用せず、ソーシャルディスタンスの確保に努めてください。

他の登山者との声を出してのあいさつはできるだけ控え、お互いに笑顔で会釈する方法であいさつするようにしてください。

### ●体調不良の報告

少しでも体調に異変を感じた際には、ガイドや添乗員に報告してください。途中の山小屋の収容人員が通常より少ないためリタイアできない可能性がある。感染が疑われる登山者は隔離する必要があるなど、各施設や登山者の負担やリスクは通常時より増大しています。また、感染が疑われる登山者の同行者も下山する必要があるため、同じツアーの参加者に迷惑をかける可能性があります。体調不良者は、できるだけ早い段階で、ツアーへの参加を中止し、下山していただくようお願いいたします。

## 代表者またはツアー主催者（添乗員）

### ●ガイドとの情報共有

通常時はガイドが大声で、代表者や、最後尾の添乗員に向けて情報の伝達を行えますが、飛沫防止のため大声を出せない、ソーシャルディスタンスの確保のために通常時より列が長くなる等の理由で、大声での伝達できません。携帯電話やインカムを利用して、情報を共有できるようにしてください。

### ●参加者の体調確認

通常時よりも注意深く参加者の体調を確認し、体調不良者の把握に留意してください。体調不良者が出た際には、すぐにガイドに知らせるとともに、症状の変化に注意してください。

## 4.休憩時

### ガイド ・ 参加者（添乗員を含む）共通

#### ●ソーシャルディスタンスの確保

住居を共にしている同行者以外とは、2m程度のソーシャルディスタンスを確保して休憩してください。その際、道をふさがないように注意し、他の登山者が十分な間隔を確保して通過できるようにしてください。他の登山者と休憩場所を共有する場合には、飲食時以外はマスクを着用してください。

#### ●飲食時の注意

水分や行動食を口にする際にはマスクを外す必要がありますが、住居を共にしている同行者以外と会話する際には必ずマスクを着用してください。また、口にするものに触れる場合には、事前に手指を消毒してください。

#### ●トイレ・売店利用時の注意

トイレ利用時は必ずマスクを着用し、利用後には必ず手指の消毒を徹底して行ってください。また、売店利用時も必ずマスクを着用し、購入する商品以外にはできるだけ手を触れないようにしてください。利用後には必ず手指を消毒してください。

#### ●ごみの持ち帰り

行動中や休憩中に出たゴミは、密閉式保存袋に入れて必ず持ち帰ってください。なお、道中や休憩場所に落ちているゴミや落とし物には手を触れず、ガイドにお知らせください。

### ガイド

#### ●休憩場所の選定

できるだけ他の登山者と場所やタイミングが重ならないよう、また、登下山道をふさいでしまわないように配慮して休憩場所を選定してください。

山小屋の入口付近は宿泊者がチェックインする際の待機場所となっています。また、売店利用者が集中することもあるので、山小屋の入口付近や売店付近での休憩はできるだけ避けてください。やむを得ず入口や売店の付近で休憩をとる場合は、山小屋に確認をとって利用してください。

#### ●参加者への説明・案内

参加者への説明や案内をする際には、先頭から大声で発話するのではなく、休憩の列に沿って移動しながら、すべての参加者に伝わるよう、同じ案内を複数回繰り返してください。



## 5.宿泊時

### ガイド ・ 参加者（添乗員を含む）共通

#### ●入館時の密集を避ける

山小屋に入館する際には、密集しやすいため、ソーシャルディスタンスを確保しながら屋外で待機し、山小屋の指示に従って入館してください。また、入館の際には、必ず手指の消毒を行ってください。

#### ●館内では山小屋の指示に従う

山小屋内ではマスクを着用し、大声での会話は控えてください。また、食事の際にはできるだけ会話を控えてください。その他、館内の利用方法については山小屋の指示に従ってください。

#### ●宿泊時の体調不良

山小屋滞在中に発熱や体調の異変があった場合には、山小屋の従業員またはガイドに申し出てください。感染が疑われる場合には、山小屋内の隔離区画への移動をお願いします。

### ガイド

#### ●山小屋内での参加者への説明や案内

山小屋内で参加者を集め、翌日の行動予定等を大声で案内することはできません。事前に山小屋と相談し、どのような手段で参加者への説明や案内を行うか検討しておいてください。

#### ●宿泊時の体調不良者への対応

参加者から体調不良等の申し出があった場合は、山小屋に伝え、山小屋の指示に従って対応してください。また、体調不良者についての情報は、代表者や添乗員とも共有してください。

### 代表者またはツアー主催者（添乗員）

#### ●宿泊時の体調不良者への対応

参加者から体調不良等の申し出があった場合は、山小屋に伝え、山小屋の指示に従って対応してください。また、体調不良者についての情報は、ガイドとも共有してください。

## 6.傷病者発生時

### ガイド

#### ●重症者への対応

- ① 周囲の安全確認を行い、必要に応じて安全な場所に移動してください。補助者が必要な場合には、周囲のガイドや登山者に要請してください。救援者（補助者を含む）は、必ずマスクと使い捨て手袋を着用してください。また、要救護者以外の参加者へもマスクの着用を指示し、安全な場所へ退避させてください。その際、要救護者の同行者、代表者または添乗員には現場に残っていただき、マスクと使い捨て手袋の着用を指示してください。
- ② 正常な呼吸がない場合は心肺蘇生を開始し、最寄りの山小屋や施設に連絡してAEDを手配してください。大出血がある場合には止血を行ってください。正常な呼吸がない、大出血がある、意識がない場合は最寄りの救護所（もしくは宿泊する山小屋）に連絡し、その指示に応じてクローラーの出動要請と救急車の手配をしてください。
- ③ AEDが到着したら、すぐにAEDを装着してスタートボタンを押してください。医師やクローラーが到着するまで、AEDの指示に従って心肺蘇生を継続してください。また、クローラー到着までに、誰が要救護者に付き添って医療機関に行くかを決めておいてください。
- ④ クローラーでの搬送が開始されたのち、五合目総合管理センターへ報告を行ってください。

#### ●重症者以外の傷病者への対応

- ① 周囲の安全確認を行い、必要に応じて安全な場所に移動してください。補助者が必要な場合には、周囲のガイドや登山者に要請してください。救援者（補助者を含む）は、必ずマスクと使い捨て手袋を着用してください。また、要救護者以外の参加者へもマスクの着用を指示し、安全な場所へ退避させてください。その際、要救護者の同行者、代表者または添乗員には現場に残っていただき、マスクと使い捨て手袋の着用を指示してください。
- ② 要救護者にマスクを着用してもらい、出血や骨折が認められる場合には、止血や固定を行ってください。体調不良者の場合には検温を実施し、発熱や咳など新型コロナウイルスの感染が疑われる症状がある場合には、最寄りの救護所（もしくは宿泊する山小屋）へ連絡し、指示に従ってください。感染が疑われない場合には適切な処置を行い、登山継続が可能か判断してください。
- ③ 登山の継続は難しいと判断した場合には、本人の承諾を得て下山していただきます。自力歩行が不可能な場合には、宿泊する山小屋もしくは五合目総合管理センターに連絡し、クローラーの出動と救急車の手配を要請してください。自力歩行は可能であるが、夜間の下山になる場合や、休養により体調の回復が見込まれる場合は、最寄りの山小屋に空室を確認し、本人の承諾を得たうえで宿泊していただき、翌朝下山していただきます。要救護者への付き添いが必要な場合には、誰が付き添うかを決めてください。
- ④ まだ五合目総合管理センターに連絡していない場合は、五合目総合管理センターへ報告を行ってください。

## 参加者

### ●吐物などの持ち帰り

嘔吐物・血液や体液が付着した汚物については、必ず、密閉式保存袋に入れて密封し、本人もしくは住居を共にする同行者が持ち帰ってください。

## 感染の疑いがある傷病者ならびにその同行者

### ●ソーシャルディスタンスの確保とマスク等の着用

新型コロナウイルスの感染が疑われると判断された場合は、下山中を含め、飲食時以外は常にマスクを着用し、ソーシャルディスタンスの確保に努めてください。また、付き添い者は、住居を共にしている同行者が付き添う場合であっても、マスクを着用し、ソーシャルディスタンスの確保に努めてください。

### ●濃厚接触者の下山

新型コロナウイルスの感染が疑われると判断された傷病者の濃厚接触者についても、登山を中止して下山していただきます。下山中を含め、飲食時以外は常にマスクを着用し、ソーシャルディスタンスの確保に努めてください。

## 代表者またはツアー主催者（添乗員）

### ●傷病者への下山後の対応

傷病者がツアーを離脱して下山する場合、五合目からどのような交通機関を用いて帰宅するかなどについて、本人（付き添い者を含む）に説明し、承諾を得てください。また、傷病者が医療機関に搬送された場合には、搬送先の医療機関を確認し、必要に応じて親族等に連絡してください。

## 7.下山後

### ガイド ・ 参加者（添乗員を含む） 共通

### ●体調の変化に注意

下山後の体調の変化に注意し、発熱や咳など感染が疑われる症状が出た場合には、医療機関や新型コロナウイルス感染症受診・相談センターに相談してください。感染が確認された際には、保健所などの要請に応じ、登山中の利用施設や行動について報告してください。

## 代表者またはツアー主催者

### ●参加者名簿等の管理・提出

参加者名簿や行動記録の管理を適切に行い、保健所などに提出を求められた場合に、迅速に対応できるようにしてください。

## おわりに

本指針は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、通常時のガイド業務における行動の一部を制約する内容となっております。

しかしながら登山中には、落石・強風・落雷・噴火など、生命の危険につながるような自然現象が突発的に発生する恐れがあります。そのような場合には、生命の危険を回避する対応を優先し、感染防止対策により、危険回避行動が制約されたり、対応に遅れが生じることがないように注意してください。

登山ガイド業務に従事する組合員は、日頃より、新型コロナウイルス感染予防に留意し、感染につながるような軽率な行動を慎むようお願いいたします。また、感染が疑われる症状がある場合や、感染者の濃厚接触者と判断される場合には、医療機関や新型コロナウイルス感染症受診・相談センターに相談するとともに、所属する山小屋に連絡するようにしてください。

組合員は、ガイド業務の遂行や実状において、本指針の訂正や加筆が必要と判断した場合、また、山小屋や関係機関からの本指針に関する要望を受けた場合には、本組合役員にお知らせいただきますようお願いいたします。